

第2期泉区地域福祉保健計画 中間振り返り



泉区福祉保健センター
泉区社会福祉協議会
平成 25 年 3 月

はじめに

第2期泉区地域福祉保健計画中間振り返りに当たって

第2期泉区地域福祉保健計画は22年度から27年度までの6年間、泉区の福祉や保健の進め方についてどのような方向で進めていくのか明らかにして「地域の課題を地域で解決し、地域の支え合いによって誰もが安心して生活できるまちをつくるため」に計画したものです。これは「支えあい助け合いが生きる元気の出るまち泉」という基本理念に明確に現されています。

そして計画は時代の情勢の変化に応じて3年ごとに見直していこうと決めていました。24年度はこの見直しの時期に当たっています。

さて、この計画の策定に当たっては地域の住民、関係機関、行政が知恵を出し合い進めているわけですが、今回の見直しにあたっては状況認識について述べておきたいと思います。

まず第1にこれまで漠然と考えていた超高齢社会への不安が身近に現実の課題として迫ってきていることです。介護保険制度ができて15年ほど経過していますが、横浜市の介護給付は最近の10年ほどで2.7倍にも増加しています。一方で税収は逆に減少しています。今後この状況はますます深刻化します。財政の問題だけではなく一人暮らしの高齢者の著しい増加が孤立死などの課題を引き起こしています。

第2に地域の様々な課題がより多様化、深刻化してきていることです。生活保護を受給する人は全国で200万人を超えているわけですが、横浜市でもこの10年間でおよそ1.7倍になっています。泉区では保護受給世帯は2,000を、人員は3,000を超えています。生活に困窮する人の増加は、十分に教育が受けられない子どもたちを増やし、薬物依存などの反社会的な行為が広がる原因にもなります。また、貧困だけではなく児童虐待の増加に現れるような子育ての上の諸課題や家庭の不和などの深刻な家族問題なども起こしています。

第3に社会の偏見や差別の中で生活の困難をきたしている人がまだまだ多いということです。例えば生活保護を受けている人が引け目を感じて生活しているとか、罪を償った人がなかなか働ける場がないなどです。また、障がいのある人の働く場や活動の場もますます拡大が必要です。

このような現実が地域のなかに存在していることを踏まえながら、地域のなかでできる課題から働きかけを行っていくことが大変重要となってきたと考えます。今後の地域活動をより進化した、層の厚い、深みのあるものとしていくことが大切だと思います。

平成25年3月

泉区福祉保健センター長 細野博嗣

目 次

I	中間振り返りから明らかになったこと	1
1	上半期(22~24年度)の振り返りから明らかになったこと	… 1
2	下半期(25~27年度)の活動の視点【総論】	…………… 2
3	下半期(25~27年度)の活動の視点【各論】	…………… 3
II	第2期泉区地域福祉保健計画 中間振り返りについて	11
1	第2期泉区地域福祉保健計画が目指すもの	…………… 11
2	中間振り返りの進め方	…………… 12
III	中間振り返りまとめ	13
	中間振り返りまとめ表の見方	…………… 14
1	計画を支える土台の取組	…………… 15
	交流	…………… 16
	担い手	…………… 19
	情報	…………… 21
2	分野別の取組	…………… 23
	高齢	…………… 24
	障がい	…………… 30
	こども・子育て	…………… 34
	健康づくり	…………… 38
	防災・防犯	…………… 41

I 中間振り返りから明らかになったこと

振り返りは目標に対して区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザの事業経過のまとめを基に経過評価をおこない、次のことが明らかになりました。

1 上半期(22~24年度)の振り返りから明らかになったこと

○さまざまな取組により地域のつながりが強くなっています。例えば、子育て支援ネットワークは地域、区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザが取り組むことで、顔の見える関係づくりや子育て中の親子の実態を知ることができました。取組に地域差はあっても、地域福祉保健への意識の向上が確実に進んでいます。

○区役所・区社協・地域ケアプラザ（以下、3者とする）はそれぞれの得意分野がありますが、地域は1家族に多世代が生活しており、さまざまな生活課題があります。そのため、さらに3者が横断的に情報を共有し、連携した体制を進めることが大切です。

しかし、統計GISデータで分かるように、今後超高齢化を迎える泉区では、福祉や保健の取組だけではなく、住まいや交通など、まちづくりの視点をもって関わるが必要となり、今以上に他部署・他機関と連携していくことが求められます。

○分野別計画「防災・防犯」分野も取組項目となっていますが、東日本大震災発生を踏まえ、区全体として取り組むべき大きな課題となっています。

しかし、防災・防犯の分野は防災担当部署を中心としたより大きな枠組みの中で議論・検討していくことが効果的なため、今後は、現在地域で行なわれている災害時の見守り等の取組に限定して計画の対象としていくこととします。

2 下半期(25~27年度)の活動の視点 【総論】

○地域福祉保健の推進には、地域の主体的見守り等に見られる自助・共助の精神のほか、地域の生活課題の解決に向けて、区民と行政との協働関係が大切です。今後はさらに3者の具体的な活動として、単身高齢者など孤立している人などからの求めがなくても、日常の地域の福祉保健活動を通じてニーズを抱えている区民の声を聞き、区民の健康や生活に関するニーズを発掘し、必要な福祉保健施策につなげていくことが重要です。また地域での障がい者との交流の支援や社会的に排除されやすい罪を償った人の社会復帰のための取組などへの支援なども求められてきています。

○個人の生活が違うように、地域にもそれぞれ違いがあります。その違いをきちんと把握し、特性を生かした地域づくりを考えていかなければなりません。統計GISデータの過去からの推移や将来推計を活用し、その地域の特性を明らかにしたうえで、話合いの材料とすることが必要です。

※ 統計GISデータ

地理情報システム (Geographic Information System) のこと。

コンピューター上に地図情報や人口、世帯、年齢等の様々な情報をのせ作成、保存、利用するシステム。これにより、いままで市や区単位でしか出せなかった地域情報を自治会連合単位で出すことが可能になった。横浜市では泉区がはじめて導入した。

現在、過去分析データと将来推計データがある。

地域福祉保健計画推進事務局の活動の視点

○企画調整役を担う区役所福祉保健課事業企画担当は、12地区別計画の推進を支援する3者からなる地域支援活動と分野別事業推進の双方の活動から、区全体を俯瞰して課題を整理し、解決のための必要なサービス資源の検討や開発を行ない、地域の福祉保健の充実を図ります。

○区社協は、地域福祉保健計画と分野(柱立て)を揃えて事業計画をたて、区社協が担う支援を強化しています。地区社協など区民に身近なところでの福祉活動の充実のため、地域・関係機関との連携を図ることを大切にしながら、事業を進めます。

土 台

【交流】

基本目標1 ちょっとした困りごとにご近所の支え合いができる仕組みをつくろう

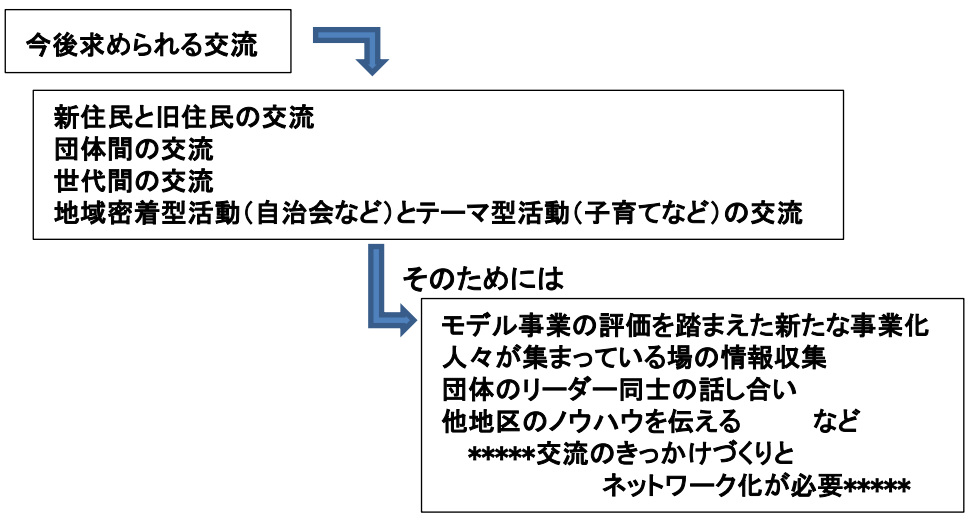
- ◆ 結束の強い古くからの住民と新たに転入してきた住民との間の交流を進める。
- ◆ 交流のきっかけが必要であり、団体の交流を通じた世代間の交流のきっかけづくりを進める。
- ◆ 実施したモデル事業の評価を実施し、新たな事業化を検討する。

基本目標2 誰もが参加できる交流の場・機会をつくろう

- ◆ 活動の場(拠点)を求めている地区もあり、活動拠点整備、また拠点以外で高齢者や親子などが集まっている場の情報収集を行う。
- ◆ それぞれの地域の特質を活かした世代間などの交流がさらに進むように支援する。
- ◆ 既存の活動やイベントに誰もが参加しやすい企画を加え、周知を徹底していく。

基本目標3 地域で活動するグループ同士のネットワークをつくろう

- ◆ 同じ目的の団体の区域での交流と、同じエリアで活動する団体の交流を組み合わせたネットワークをつくる。
- ◆ 団体間の交流を進めるために、団体のリーダー同士の話し合いを進める。
- ◆ 活発な活動を行っている地区のノウハウを他の地区に伝えていく。



【担い手】

基本目標 地域の活動に、誰もが気軽に楽しく参加できる仕組みづくりをすすめよう

- ◆活動団体の担い手は多いが、シニア世代が多く、若い世代の担い手の育成が課題である。
- ◆活動の時間を工夫して、昼間働いている人も参加可能な体制をつくる。
- ◆リタイア後は趣味に生きたいと考えるシニア世代が多いことから、趣味の活動も地域の活動として捉え、趣味と地域の活動を関連させていく。
- ◆次世代の担い手育成が課題であり、若い世代の活動に着目して次世代を育てる。
- ◆趣味のグループを応援しながら、担い手を見つける。

若い世代の担い手の育成

そのためには

活動の時間の工夫(昼間働いている人も参加可能な体制)
趣味の活動も地域の活動(趣味と地域の活動を関連させていく)
若い世代の活動に着目
趣味のグループの応援 などによって
*****新たな担い手の発掘と育成を行う*****

【情報】

基本目標 誰もが情報を入手・発信しやすい仕組みをつくろう

- ◆広報よこはま泉区版はタイムリーではないため、回覧板やチラシなど、より伝達が有効な配布方法や、ホームページを含めたその他の伝達手段の工夫を行う。
- ◆必要な人に的確に情報が届いているかの確認をする。

必要な人に的確に情報が届いているかが課題

そのためには

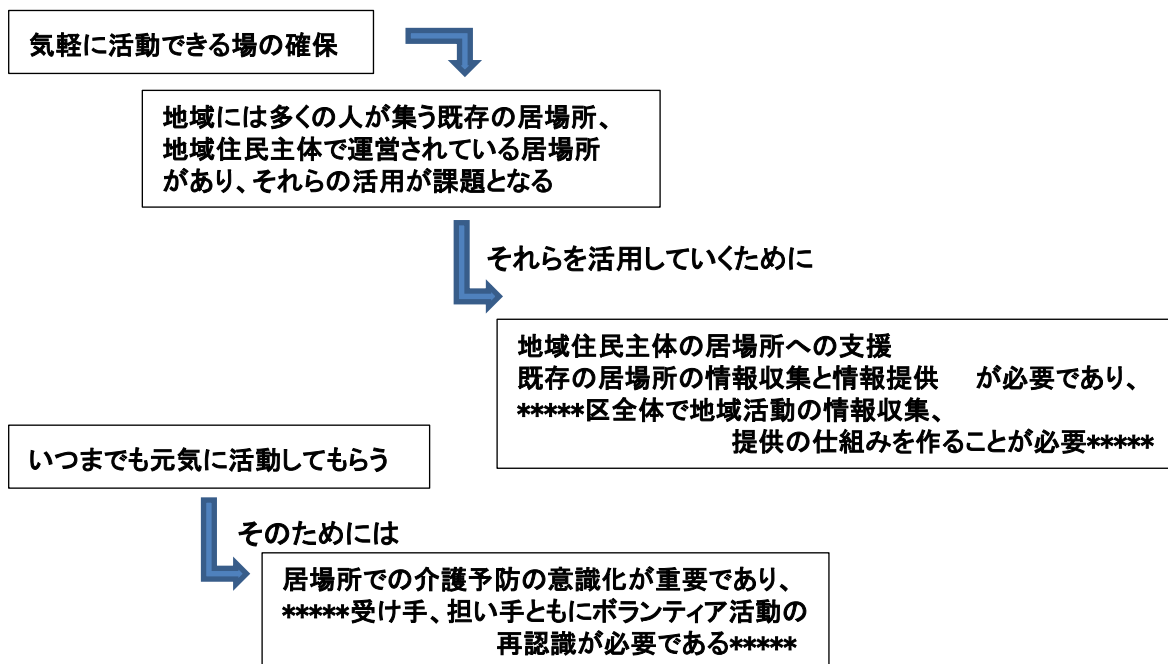
伝達が有効な配布方法(回覧板やチラシなど)
その他の伝達手段の工夫(ホームページ等) などによって
*****情報を確実に届ける工夫とともに、
届いていることの確認をしていく*****

分野

【高齢】

基本目標 1 いつまでも元気で、気軽に活動できる場をつくろう

- ◆気軽に活動できる場を確保するためには、拠点となる会場が必要であるが、地域には多くの人が集う既存の居場所（地区センター将棋コーナーなど）があることから、それらの情報提供を行っていく必要がある。また、地域住民主体で運営されている居場所（サロンなど）に対する支援に取り組むことも必要である。そのためには区全体で地域活動の情報収集、提供の仕組みを作ることが求められる。
- ◆いつまでも元気で、気軽に活動してもらうよう、サロン活動が介護予防につながっていることを再認識できるように周知していく必要がある。
- ◆ボランティア活動の意義について、受け手・担い手共に確認することが必要である。



基本目標2 助けが必要な高齢者のいる家庭を支援しよう

認知症の理解

◆認知症について世代を超えて理解を深め、認知症になっても安心して生活できるまちづくりを目指す。

助けが必要な高齢者の発見

◆徘徊高齢者等の発見協力機関の拡大にあたり、他区役所と区外の協力機関との連携について検討を継続することが必要である。

助けが必要な高齢者への支援

◆見守りの定義が大きいので、誰が、誰に、何をするのかを明確にする必要がある。その上で、ちょっとした手伝いをしてもらえる組織が地域にあることが望ましい。

◆高齢者等の権利擁護を図る制度の存在はまだ知られておらず広く普及啓発が求められる。

◆「もの忘れ相談」は、専門医への受診を躊躇してしまう方でも気軽に受けることができ、これから介護をする家族へ大きな影響を与えるので継続する。

介護者への支援

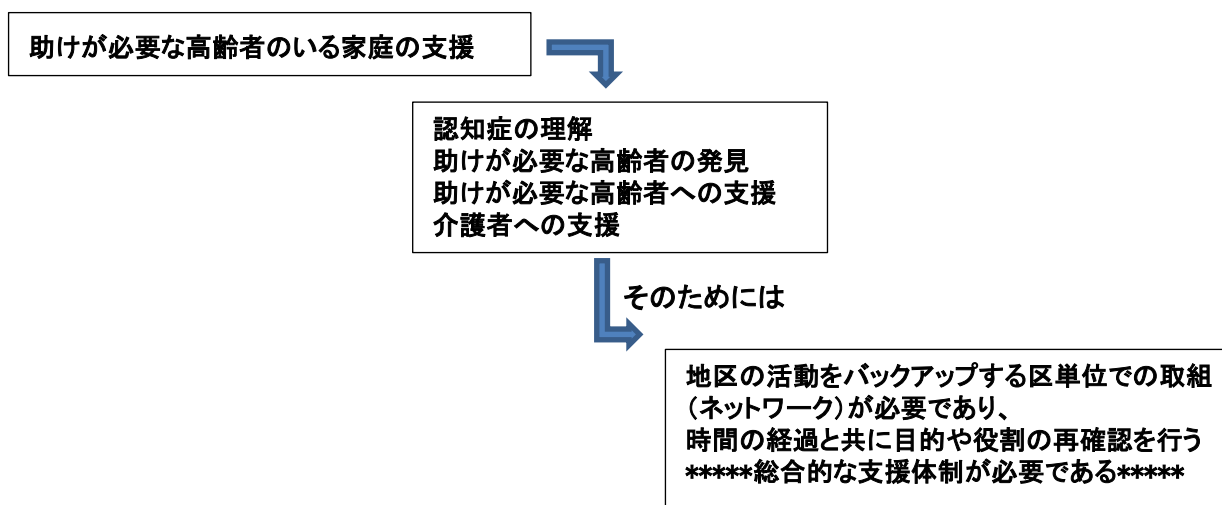
◆介護者のつとみ以外の介護者支援のあり方を明確にする必要がある。

基本目標3 グループ間の連携を深めよう

地区の活動をバックアップする支援体制

◆12地区は高齢化率や担い手など地域差があり、ケアプラザエリア単位では活動内容別のグループは少数になりネットワークは難しいため、区域単位での取組が必要である。

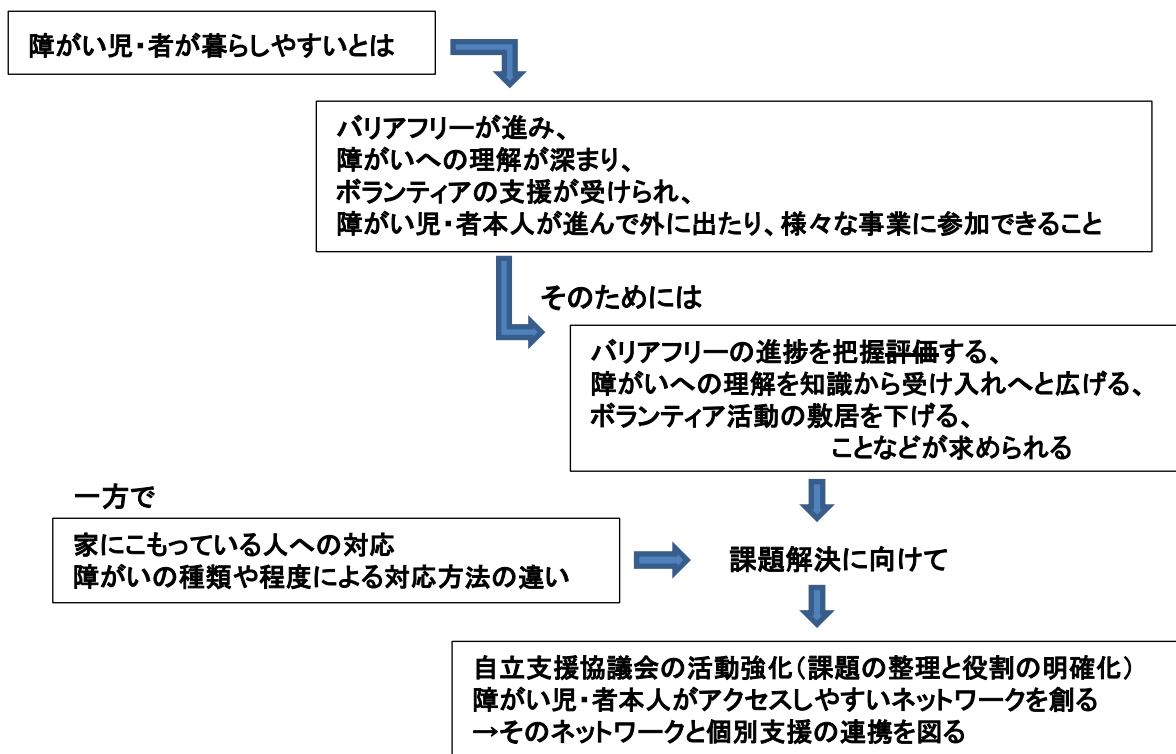
◆時間の経過とともに各ネットワークの目的や役割等を振り返り、確認していくことが求められる。



【障がい】

基本目標 障がい児・者が暮らしやすくなる地域をつくろう

- ◆障がい児・者が暮らしやすい地域をつくるためには、意識のバリアフリーが進み、障がいへの理解が深まり、ボランティアの支援が受けられ、障がい児・者本人が進んで外に出たり、様々な事業に参加できるような、まちづくりを目指す必要がある。そのためにはバリアフリーの進捗状況を把握していくこと、障がいの理解を知識から受け入れへと広げていくこと、障がい児・者に対するボランティア活動の敷居を低くするなどの対応が求められている。
- ◆一方で、家にこもっている人への対応や、障がいの種類や程度の違いによる対応の難しさ等の課題があるため、自立支援協議会の活動を強化し、各課題の整理や検討、各々の役割の明確化に取り組むことが重要である。
- ◆その上で、障がい児・者本人がアクセスしやすいネットワークをつくり、ネットワークと個別支援の連携を図っていくことが大切である。



【こども・子育て】

基本目標1 地域の中で子育てができ、こどもが育つ仕組みをつくろう

- ◆地域の中でこどもが育つ仕組みづくりでは、子育ての相談があった時に、きちんとした情報のもとに相談先を案内できるようにすることが必要である。そのためには、3者が子育て相談の情報を共有、連携を図ることが大切である。

基本目標2 誰でも集える、世代間交流・ふるさとづくりの場をつくろう

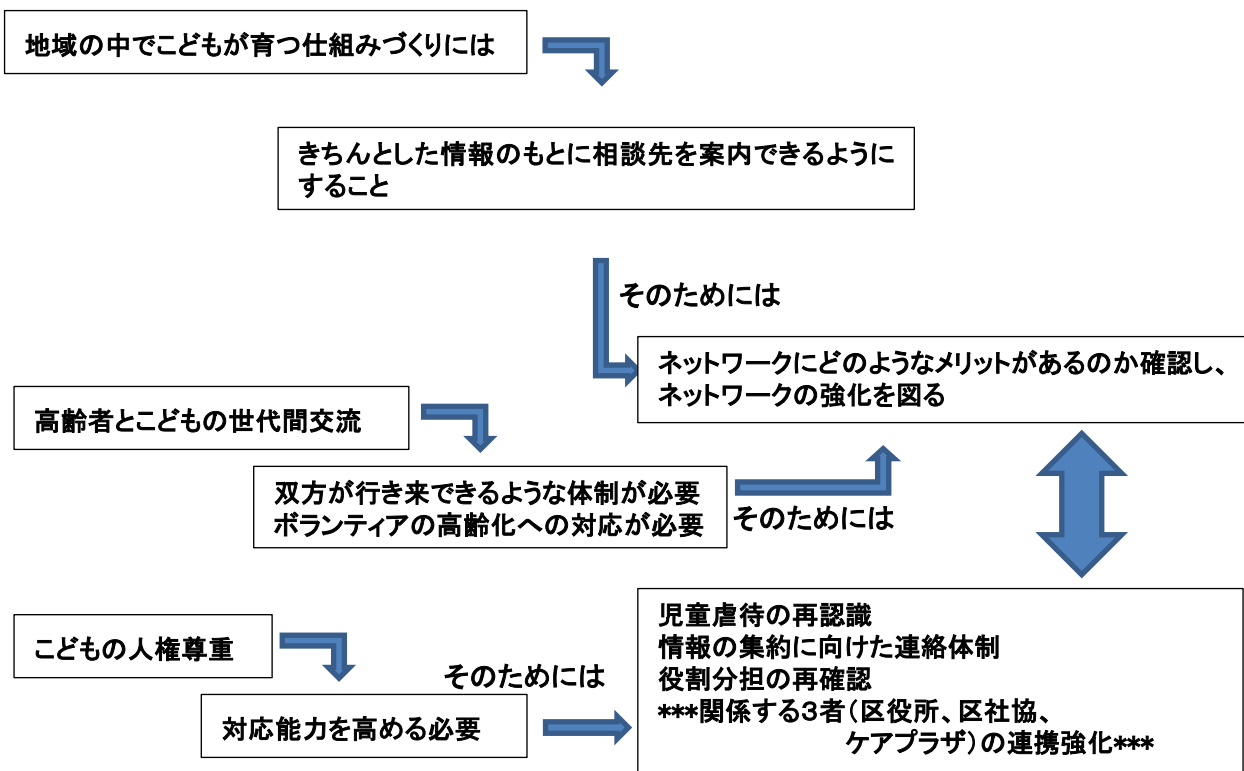
- ◆世代間交流といっても、高齢者のサロンにこどもが出かけるのは運営上難しく、他の事例の情報提供など、お互いが行き来できるアイデアを出す必要がある。また、サロン連絡会で声がでていくように、ボランティアの高齢化に伴う支援方法として、ボランティアにサロンのOBママの協力を得ることも検討していく必要がある。

基本目標3 子育て支援団体・協力者のネットワークをつくろう

- ◆ネットワークの強化（区域とケアプラザエリア別の取組み内容や、参加者各々の役割）を図ると共に、ネットワークがつながることで、住民にどのようなメリットがあるのか確認し伝えていくことが重要である。

基本目標4 こどもの人権を尊重する地域づくりをしよう

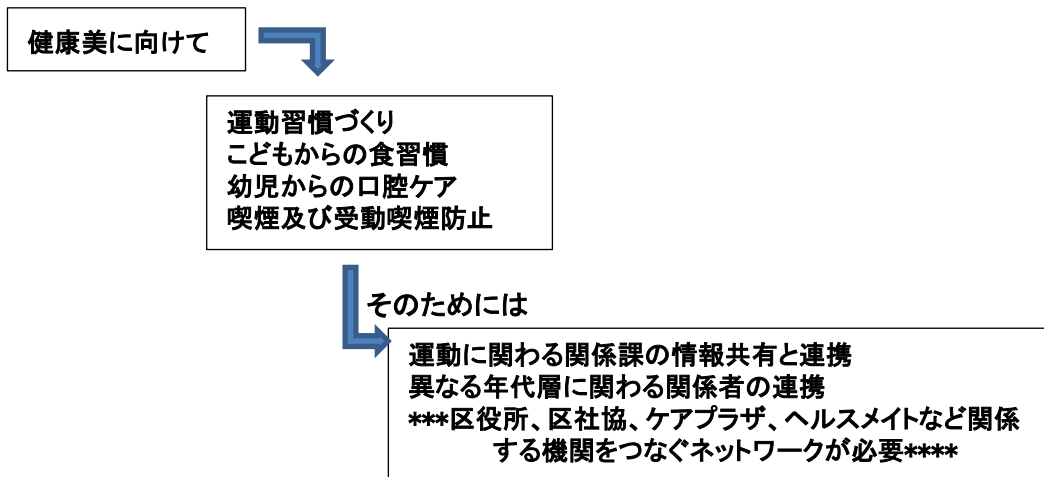
- ◆関係する3者が児童虐待の再認識をし、情報の集約に向けた連絡体制や、役割分担を再確認して、対応能力を高める必要がある。



【健康づくり】

基本目標 健康美を手に入れよう

- ◆健康美に向けた運動習慣づくりは、高齢者対象であれば高齢支援課、スポーツ・レクリエーションの観点では地域振興課など、さまざまな部署が関わるため、関係課で情報を共有しながら取組を進めていく必要がある。
- ◆健康美に向けた食習慣づくりは、どの世代にもあてはまる視点での取組と、こどもからの食習慣の必要性のさらなる啓発を行っていく必要があることから、区役所、区社協、ケアプラザ、ヘルスメイトなど、それぞれで関わる年代層が異なる関係者の連携を進める必要がある。
- ◆さらに、健康美に向けては、幼児からの口腔ケアの重要性、喫煙及び受動喫煙防止のさらなる啓発を行っていく必要がある。



【防災・防犯】

基本目標 1 災害緊急時に地域で助け合う仕組みづくりをすすめよう

※広域に渡り甚大な被害をもたらした 23 年3月の「東日本大震災」の発災により、災害の発生を完全に防ぐことは不可能であることが、あらためて明らかになった。

◆本市においては、横浜市防災計画「震災対策編」の全面的な修正を実施することとし、25 年4月からの修正計画の運用開始に向けて、全市的に大幅な見直しを進めております。今後の泉区の災害時仕組みづくりは、福祉保健の関係部署、関係機関だけではなく、区全体として取り組むべき大きな対策であることから、今後は地域福祉保健計画の枠組みの中での進捗状況確認、振り返り等は実施しないこととします。(24 年7月の泉区地域福祉保健推進協議会で承認済)
今後は、現在地域で行なわれている災害時の見守り等の取組に限定して計画の対象としていくこととします。

基本目標 2 誰もが安心して暮らせる犯罪に強いまちづくりをすすめよう

※「防犯」については、区役所福祉保健センター、区社協、ケアプラザのいずれもが、ホームページ、広報紙により、警察署が作成している犯罪情報の提供を行っている程度に過ぎない。

◆福祉保健の関係部署、関係機関としては、他の4分野【高齢、障がい、こども・子育て、健康づくり】に力を注ぐべきであるという意見が多く、今後は地域福祉保健計画の枠組みの中での進捗状況確認、振り返り等は実施しないこととします。(24 年7月の泉区地域福祉保健推進協議会で承認済)

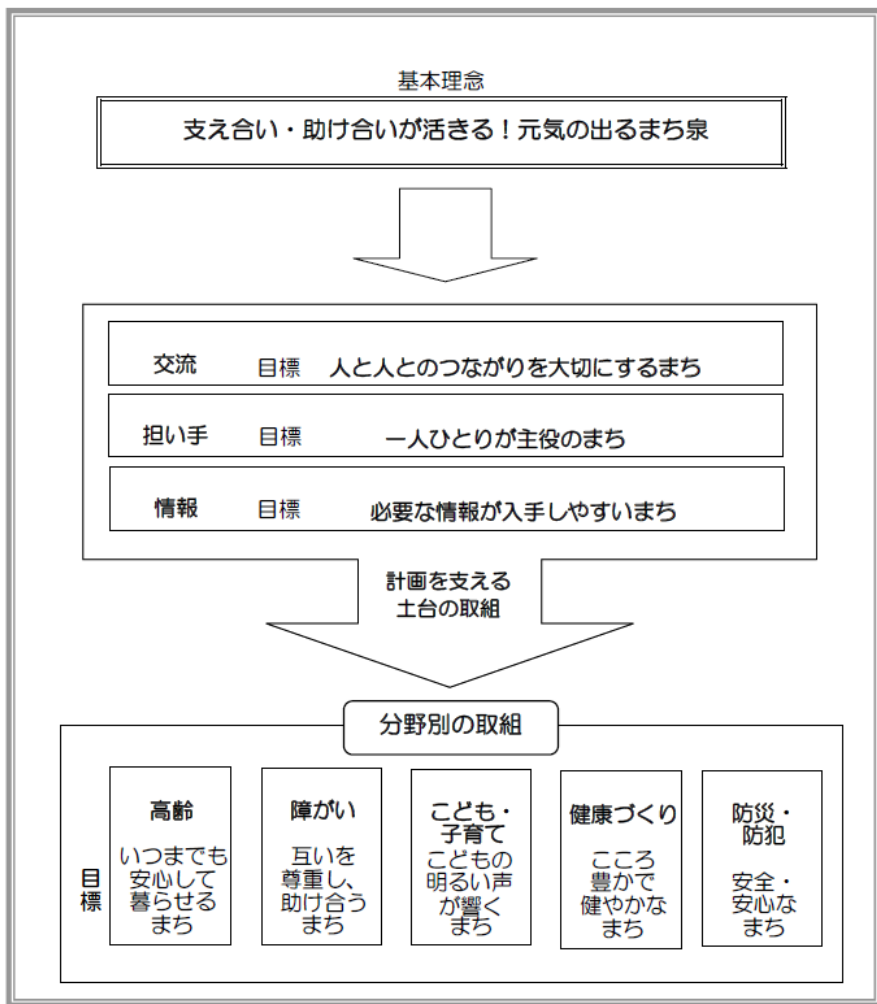
II 第2期泉区地域福祉保健計画 中間振り返りについて

1 第2期泉区地域福祉保健計画が目指すもの

地域福祉保健計画は社会福祉法に基づく、地域の課題を地域で解決し地域の支え合いによって誰もが安心して生活できるまちをつくるための計画です。

泉区では「支え合い・助け合いが活きる！元気の出るまち泉」を基本理念に、22から27年度までの6か年計画として22年3月に策定しました。策定には泉区地域福祉保健計画策定委員会や地区別の懇談会等を通じて、区民の皆様のご意見をいただきました。

計画は、支える土台となる「交流」「担い手」「情報」についての目標と、分野別の取組として「高齢」「障がい」「こども・子育て」「健康づくり」「防災・防犯」の目標から構成されています。



出典：「第2期泉区地域福祉保健計画」 28頁

2 中間振り返りの進め方

(1) 区計画の中間振り返り

計画策定時に、24年度は中間期としてこれまでの取組状況と残りの3年間を見据えながら、区計画の見直しを含めた振り返りを行うこととしていました。

中間振り返りは、3つの「土台」、5つの「分野」の取組目標ごとに区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザの3者で進捗状況を振り返りました。

上半期(22～24年度)の取組を振り返り、27年度の目標達成に向けての取組の見直しを行いました。さらに、区計画と共に区役所・区社会福祉協議会・5地域ケアプラザの事業名を挙げることで計画の取組を具体的にしました。

下半期は、区計画推進の視点を持って事業に取り組みます。

(2) 12地区別計画の中間振り返り

泉区地域福祉保健推進協議会で振り返り方法を確認しました。

12地区別計画については各地区で振り返りを行い、毎年2月に開催する地域福祉保健計画推進イベントでパネル掲示をしました。



掲示された12地区のパネル

【参考】単年度の振り返りの進め方

区計画は、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザの3者が進捗状況を振り返ります。

12地区別計画は、広報よこはま泉区版「元気の出るまち泉」のコーナー連載と、毎年2月に開催する泉区地域福祉保健計画推進イベントのパネル展示をもって振り返りとしています。

また、毎年アクションプラン(行動計画)を作成する地区もあります。(平成24年度は5地区)



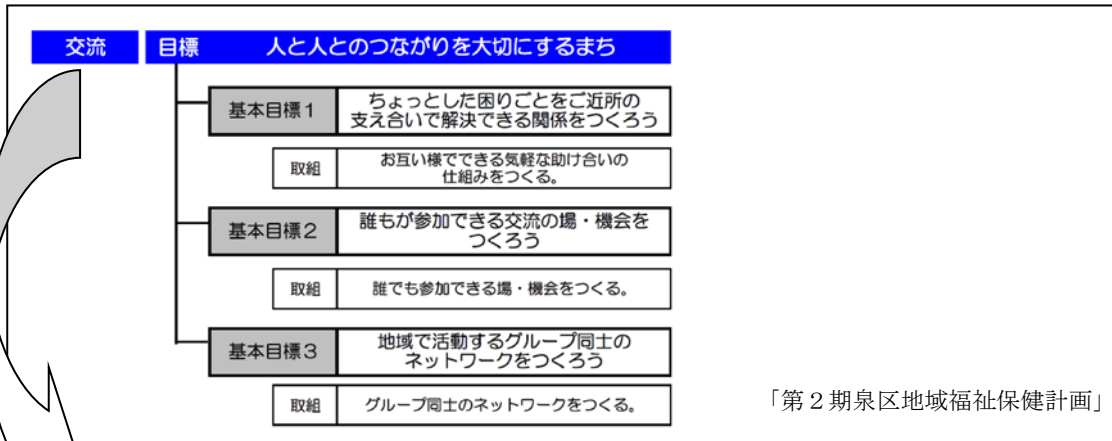
広報よこはま泉区版



Ⅲ 中間振り返り まとめ

中間振り返りのまとめ表の見方

「第2期泉区地域福祉保健計画」で作成した基本目標に沿って振り返りを行いました。



「第2期泉区地域福祉保健計画」より抜粋

交流 | 目標 | 人と人とのつながりを大切にすまち

基本目標1 ちょっとした困りごとにご近所の支え合いができる関係をつくろう

取組 ○お互い様でできる気軽な助け合いの仕組みをつくる

①

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 地域で行われている助け合いの活動を紹介する 助け合いの仕組みづくりを支援する 地域で行うあいさつ運動を支援する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 地域で行われている助け合いの活動を紹介する ボランティアネットワークの活動を支援する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 地域で行われている助け合いの活動を情報提供する 地域の特性に合った仕組みづくりや支え合いを支援する

①【表の構成】

計画の「取組」項目ごとに振り返りを行ないました

②

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉保健計画推進シンポジウムの開催による普及啓発、活動報告（年1回 22、23年度の延べ来場者数約800人） ○高齢者の見守りモデル事業「地域の見守りネットワーク構築支援事業」の取組（いずみ中央地区、上飯田団地地区）
区社協	○地区社協研修の実施（区域 ミニ研修・全体研修各年1回 議・事務局長会議の開催（各年5回）
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○地域情報サイトHPの開設（1施設） ○広報紙発行による定期的地域活動情報提供（5施設） ○地域のサロンや認知症理解・予防・支え合い事業、健康
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇シンポジウムやモデル事業を通じて近隣同士のつながりが形成されつつある ◇モデル事業を通じて、清掃活動などで地域の連携が始まっているところもみられる ◇様々な研修や情報交換の場を通じて、他地区の取組を知る機会となり、各地区の活動に広がりがみられている

②【上半期の主な取組と成果】

上半期(22~24)年度の取組と成果を3者でまとめました

③

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○一人暮らし高齢者地域見守りモデル事業	定期清掃時
	○民生委員による熱中症予防のための個別訪問	熱中症予防
区社協	○地区社協支援	12地区社
	○泉区ボランティアネットワーク（事務局）	ボランテ
ケアプラザ	○広報誌発行、地域情報サイトHP開設	地域活動の
	○サロン事業	サロンの運
	○認知症サポーター養成講座支援	認知症患者への理解と地域で支えあうための支援
	○ボランティア活動グループ支援	庭木の手入れ等の活動をするグループの支援

③【主な関連事業】

3者の目標達成のための3者の具体的な取組事業を記載しました

④

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆結束の強い古くからの住民と新たに転入してきた住民との間の交
- ◆交流のきっかけが必要であり、団体の交流を通じた世代間の交流
- ◆実施したモデル事業の評価を実施し、新たな事業化を検討する

④【上半期の取組から見えてきた課題】

上半期(22~24 年度)の取組から見えてきた新たな課題をまとめました

1 計画を支える土台の取組

交流 目標 人と人とのつながりを大切にするまち

担い手 目標 一人ひとりが主役のまち

情報 目標 必要な情報が入手しやすいまち

交流 目標 人と人とのつながりを大切にするまち

基本目標1 ちょっとした困りごとにご近所の支え合いができる関係をつくろう

取組 ○お互い様でできる気軽な助け合いの仕組みをつくる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 地域で行われている助け合いの活動を紹介する 助け合いの仕組みづくりを支援する 地域で行うあいさつ運動を支援する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 地域で行われている助け合いの活動を紹介する ボランティアネットワークの活動を支援する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 地域で行われている助け合いの活動を情報提供する 地域の特性に合った仕組みづくりや支え合いを支援する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉保健計画推進シンポジウムの開催による普及啓発、活動報告を行った。(年1回 22、23年度の延べ来場者数約800人) ○高齢者の見守りモデル事業「地域の見守りネットワーク構築支援事業」の取組を行った。(和泉中央地区、上飯田団地地区) ○地福シンボルマーク・川柳、啓発グッズ(のぼり旗、缶バッジ、反射マスコット)を作成、地域での福祉保健活動時に活用してもらうよう依頼をした。
区社協	○地区社協研修の実施(区域 ミニ研修・全体研修各年1回、市域年1回)及び地区社協会長会議・事務局長会議を開催した。(各年5回)
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○地域情報サイトHPの開設をした。(1施設) ○広報紙発行による定期的地域活動情報提供を行った。(5施設) ○地域のサロンや認知症理解・予防・支え合い事業、健康づくり等の活動への支援を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇シンポジウムやモデル事業を通じて近隣同士のつながりが形成されつつある。 ◇モデル事業を通じて、清掃活動などで地域の連携が始まっているところもみられる。 ◇様々な研修や情報交換の場を通じて、他地区の取組を知る機会となり、各地区の活動に広がりがみられている。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○一人暮らし高齢者地域見守りモデル事業	定期清掃時の見守り等日常生活での見守り活動の実施
	○民生委員による熱中症予防のための個別訪問	熱中症予防のための戸別訪問実施
区社協	○地区社協支援	12地区社協の活動・運営支援
	○泉区ボランティアネットワーク(事務局)	ボランティア団体の交流、研鑽を目的に活動
ケアプラザ	○広報誌発行、地域情報サイトHP開設	地域活動の情報提供
	○サロン事業	サロンの運営、活動への支援、近所同士声掛けのすすめ
	○認知症サポーター養成講座支援	認知症患者への理解と地域で支えあうための支援
	○ボランティア活動グループ支援	庭木の手入れ等の活動をするグループの支援

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆ 結束の強い古くからの住民と新たに転入してきた住民との間の交流を進める。
- ◆ 交流のきっかけが必要であり、団体の交流を通じた世代間の交流のきっかけづくりを進める。
- ◆ 実施したモデル事業の評価を実施し、新たな事業化を検討する。

交流 目標 人と人とのつながりを大切にするまち

基本目標2 誰もが参加できる交流の場・機会をつくろう

取組 ○誰でも参加できる場・機会をつくる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも参加できるイベント等を住民と協働で企画実施する 交流の居場所の立ち上げを支援する 保育園、幼稚園、小・中・高校、大学が地域活動に参加できるように働きかける
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 地域で開催される、誰でも参加できるイベントを支援する 地区社協が立ち上げ、運営する居場所を支援する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 交流の場を提供する 誰でも参加できる交流事業を実施する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○地区・関係機関活動発表会の開催による地区別計画の振り返り、活動者同士の交流、新たな担い手の発掘を行った。(年1回、23年度35団体参加、24年度40団体参加) ○高齢者の見守りモデル事業「地域の見守りネットワーク構築支援事業」に取り組んだ。(和泉中央地区、上飯田団地地区) ○「常設の居場所づくり支援」事業をたちあげた。(22年度のみ 応募団体なし) ○中学校を会場として、中学生と未就学児親子と地域の子育て支援団体との交流を実施した。
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなでつくろう！福祉の泉助成金を交付した。(22～24年度 延べ748団体) ○和泉中央地区の常設の居場所(いこいの家)の運営を支援した。
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉保健活動団体への貸館を行なった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇子育て・高齢者・健康づくりのサロンは各地で立ち上がりを見せている。 ◇祭りやイベントの場を活用した地域活動の紹介が進められている。 ◇助成金の交付を通じて、地域のイベントが多く開催され、交流が進んだ。 ◇いこいの家の運営支援を通じて、地域に交流の場が定着した。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○地域へ出向いての体力向上プログラム	地域で介護予防教室の開催
	○一人暮らし高齢者地域見守りモデル事業	一人暮らし高齢者への見守り訪問実施
	○高齢者サロンや高齢者体操グループへの健康教育	健康長寿についての普及啓発
	○元気づくりステーション事業	地域で介護予防のグループ活動を広める支援
	○認知症予防フェア、熱中症予防フェアの実施	熱中症・認知症の理解と予防、地域支えあい普及啓発
	○地域ごとに実施する健康長寿講演会	健康長寿についての普及啓発
	○健康づくり活動フェアの開催	保健活動推進員やヘルスマイトなどとともに企画開催
	○町ぐるみ健康づくり支援事業	健康づくりグループの支援
区社協	○みんなでつくろう！福祉の泉助成金	地域福祉活動、障がい当事者活動等へ助成金を交付する
ケアプラザ	○貸館	交流、活動の場の提供
	○イベントの開催	イベントの開催
	○各種サロンや講座の開催	子育て支援・障がい児支援・高齢者支援

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆活動の場(拠点)を求めている地区もあり、活動拠点整備、また拠点以外で高齢者や親子などが集まっている場の情報収集を行う。
- ◆それぞれの地域の特質を活かした世代間などの交流がさらに進むように支援する。
- ◆既存の活動やイベントに誰もが参加しやすい企画を加え、周知を徹底していく。

交流 目標 人と人とのつながりを大切にするまち

基本目標3 地域で活動するグループ同士のネットワークをつくらう

取組 ○グループ同士のネットワークをつくる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> グループ同士の区全体のネットワークをつくる 関係機関とのネットワークをつくり、連携を図る
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアネットワークを支援する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 地域やケアプラザで活動中の人たちの交流の機会をつくる

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○民生委員・児童委員、保健活動推進員などの職域、子育てなどのテーマごとの各種関係機関連絡会議を開催した。 ○泉区障害福祉地域自立支援協議会を開催した。
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアネットワーク全体や、各部会(高齢、障がい、子育て、一般、個人)の交流促進・運営支援を行った。
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○利用団体連絡会・交流会を開催した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域の活動団体の交流会が開催され、顔が見える関係を築きつつある。 ◇子育て支援ネットワークが充実している。 ◇ボランティアネットワークへの運営支援を通じて、ボランティアグループの連携、交流が深まった。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所 ケアプラザ	○脳若返り隊育成講座および地域ごとの交流会を実施	隊員を対象に情報交換の場や振り返りの交流会
	○脳血管疾患等中途障害者活動グループの連絡会と交流	連絡会の開催、自主勉強会支援、ボランティア交流会
	○区内のキャラバンメイト同士の交流と活動支援	年4回の連絡会、学校等他機関対象の養成講座への支援
	○健やかいずみっこ子育て支援事業	子育て支援ネットワーク連絡会を通じた情報共有、課題解決の取組
	○町ぐるみ健康づくり支援事業	町ぐるみ健康づくり支援事業
	○健康づくりに関連する取組の調査、情報共有	関係機関の健康づくりに関連する情報の共有
区社協	○泉区ボランティアネットワーク(事務局)	ボランティアの交流・連携・研鑽を目的に活動
ケアプラザ	○団体交流会の実施	地域で活動する方の交流、情報交換の場をつくる
	○地域高齢者サロン運営者交流会	高齢者支援者同士の情報交換
	○自立支援協議会協働	障がい関連施設による課題抽出と解決に向けた取組

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆同じ目的の団体の区域での交流と、同じエリアで活動する団体の交流を組み合わせたネットワークをつくる。
- ◆団体間の交流を進めるために、団体のリーダー同士の話し合いを進める。
- ◆活発な活動を行っている地区のノウハウを他の地区に伝えていく。

担い手 目標 一人ひとりが主役のまち

基本目標 地域の活動に、誰もが気軽に楽しく参加できる仕組みづくりをすすめよう

取組 ○誰でも気軽に参加できる仕組みをつくる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の情報を提供する（区の広報紙、区ホームページなどを活用） 地域人材（「人財バンク」など）、各種講座やイベント情報を紹介する 学校と連携し、児童・生徒が地域活動に参加するきっかけづくりを行う
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動情報を区社協だより、区社協のホームページなどを活用して提供する 学校等と連携して地域活動に参加する機会をつくる
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動情報をケアプラザの広報紙、ホームページなどを活用して提供する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○広報よこはま泉区版へ地区別計画活動の連載をした。 ○広報紙、ホームページにより地域活動について情報提供した。 ○ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会を実施した。（年1回）
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○広報紙、ホームページにより地域活動について情報提供した。 ○ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会を実施した。（年1回）
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○広報紙、ホームページにより地域活動について情報提供した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇子育て・高齢者・健康づくりのサロンをはじめ地域の活動は活発になっている。 ◇活動団体の担い手は多い。 ◇軽スポーツ大会に多くの中高大学生が参加し、地域活動への参加のきっかけづくりとなった。（22～24年度 延べ931人）

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○脳若返り隊育成講座・交流会	隊員を対象に情報交換の場や振り返りの交流会を実施
	○脳血管疾患等中途障害者活動グループの連絡会と交流会	連絡会の開催、自主勉強会支援、ボランティア交流会
	○区内のキャラバンメイト同士の交流と活動支援	年4回の連絡会、学校等他機関への講座開催の支援
	○健康づくり活動フェアの開催	保健活動推進員やヘルスマイトなどととも企画開催
	○保健活動推進員及びヘルスマイトの活動支援	保健活動推進員及びヘルスマイトの活動支援・PR
	○健康づくり情報コーナーにおける情報提供	健康情報、保健活動推進員及びヘルスマイトの活動PR
区役所・区社協	○ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会(実行委員会事務局)	軽スポーツを通じて障がい児・者と中高生の地域参加・交流
区社協	○広報紙（区社協だより、ボランティアセンター通信かわら版等）	各年度3回発行（区社協だよりは全戸配布）による情報提供、啓発活動
	○区社協ホームページ（泉区社協HP ボランティアパソネット泉の協力）	区社協情報・地域の福祉保健活動情報等を掲載
ケアプラザ	○広報紙の発行、ホームページの更新	広報紙、ホームページによる地域活動情報提供
	○貸室利用団体の情報提供	貸室利用団体の情報提供

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆活動団体の担い手は多いが、シニア世代が多く、若い世代の担い手の育成が課題である。
- ◆活動の時間を工夫して、昼間働いている人も参加可能な体制をつくる。
- ◆リタイア後は趣味に生きたいと考えるシニア世代が多いことから、趣味の活動も地域の活動として捉え、趣味と地域の活動を関連させていく。

担い手 目標 一人ひとりが主役のまち

基本目標 地域の活動に、誰もが気軽に楽しく参加できる仕組みづくりをすすめよう

取組 ○地域活動の担い手を育成する

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 活動のアドバイザー（専門家）を派遣する 住民の要望や地域課題に応じた担い手を、住民や活動団体と協働で育成する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動のグループリーダーを育成する 地区社協と連携して地域活動へのコーディネートを行う 住民の要望や地域課題に応じた担い手を、住民や活動団体と協働で育成する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 住民の要望や地域課題に応じた担い手を、住民や活動団体と協働で育成する 活動に意欲のある人たちを地域活動にコーディネートする

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○地域支援チーム（区役所・区社協・ケアプラザ）、地区へアドバイザーを派遣した。（9地区） ○親子サークルリーダー研修会を開催した。
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○親子サークルリーダー研修会を開催した。 ○ボランティア講座を開催し、希望者へのコーディネートを実施した。
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア講座を開催し、希望者へのコーディネートを実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇アドバイザー派遣、ボランティア講座やリーダー研修を通じて、活動が継続されている。 ◇ボランティア講座などの受講を通して、新たな活動の担い手が育成された。 ◇新たなボランティア活動希望者がボランティアセンターに登録した。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○町ぐるみ健康づくり支援事業	健康づくりグループの支援
区役所 区社協	○親子サークルリーダー研修会（区役所、すきっぷ、子育て支援者と共催）	地域の担い手として活動が継続できるよう支援
区社協	○ボランティア講座	ボランティア活動の心構えや体験の講座を企画実施
ケアプラザ	○ボランティア講座	ボランティア活動の心構え講座
	○ボランティア希望者のコーディネート	地域サロンやケアプラザ内等の活動場所等の情報提供
	○中学校福祉体験事前学習支援	中学生は地域の担い手として大いに期待されている旨の講話

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆次世代の担い手育成が課題であり、若い世代の活動に着目して次世代を育てる。
- ◆趣味のグループを応援しながら、担い手を見つける。

情報 目標 必要な情報が入手しやすいまち

基本目標 誰もが情報を入手・発信しやすい仕組みをつくろう

取組 ○情報を入手・発信しやすい環境をつくる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ・区の広報紙、区ホームページ（モバイル）、地域の情報提供媒体を活用して、日常的に情報提供を行う ・地域活動の運営者への情報提供を行う ・地域住民等と協働で、区全体の地域活動、社会資源、防災等のマップを作成する ・区役所内連携を強化し、地域情報の入手と発信を効果的に行う ・商店などの協力を得て、情報発信を行う
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・区社協だより、区社協ホームページ（モバイル）、地域の情報提供媒体を活用して、日常的に情報提供を行う ・地域住民等と協働で、区全体の地域活動、社会資源、防災等のマップを作成する ・区内地域活動情報を紹介するホームページを充実させ、書き込み登録団体を増やす
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙等を活用して、情報提供を行う ・地区の福祉保健に関する情報提供と集約、情報提供を行う ・チラシ、ケアプラザのホームページ、モバイル等を活用した情報発信の充実を図る

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	○地福推進イベントでは、生活衛生協議会に体験イベントへの協力、及び会員店舗へのポスター掲示を依頼した。（24年度、104店舗）
区社協	○ホームページ書き込み登録団体は23年度37団体から24年度40団体へ増加した。
区役所 区社協 ケアプラザ	○広報紙の発行や区役所・区社協・ケアプラザのホームページへの掲載により、情報提供を行った。 ○地域のおでかけ情報マップや子育て情報冊子を作成する地域の支援を行った。
成果	◇区の広報紙、地区社協だより、ケアプラザの機関紙を通じて地区の情報が発信されている。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○広報（ほっとライン、いずみのお知らせ、特集）	認知症フェアのPRや認知症の特集を掲載
	○健康づくり活動フェアの開催（保健活動推進員やヘルスマイトなどととも企画・開催）	健康づくり活動フェアの開催
	○健康づくり情報コーナーの設置による、健康づくりに関する情報、保健活動	健康づくり情報コーナーにおける情報提供
	○広報特集に健康づくりに関する地域の活動などを紹介	関係機関の健康づくりに関連する情報の共有
	○関係機関の健康づくりに関連する取組の調査と情報共有	広報よこはまにおける情報提供
区社協	○区社協だより（年3回 全戸配布）	ボランティア、地域イベント情報等を広報し、福祉の啓発
	○区社協ホームページ（泉区社協HP ボランティアパソネット泉の協力）	区社協情報・地域の福祉保健活動情報等を掲載
ケアプラザ	○広報紙、ホームページの作成	広報紙の発行、ホームページの掲載による情報提供
	○貸室登録団体のPRスペース	ケアプラザ館内に貸室登録団体のPRスペース確保

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆広報よこはま泉区版はタイムリーではないため、回覧板やチラシなど、より伝達が有効な配布方法や、ホームページを含めたその他の伝達手段の工夫を行う。
- ◆必要な人に的確に情報が届いているかの確認をする。

2 分野別の取組

高齢	目標	いつまでも安心して暮らせるまち
障がい	目標	互いを尊重し、助け合うまち
こども・子育て	目標	こどもの明るい声が響くまち
健康づくり	目標	こころ豊かで健やかなまち
防災・防犯	目標	安心・安全なまち

高齢 目標 いつまでも安心して暮らせるまち

基本目標1 いつまでも元気で、気軽に活動できる場をつくろう

取組 ○気軽に参加できる居場所をつくる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 地域の居場所の情報提供を行う 常設居場所づくりを支援する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 居場所の運営支援を行う 高齢者が居場所に参加しやすい支援を行う。(移送サービス等)
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 住民が主体となって行う居場所づくりへの支援を行う

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	○「常設の居場所づくり立ち上げ支援事業」を実施した。(22年度のみ 応募団体なし)
区社協	○福祉の泉助成金をサロン団体へ交付した。(24年度31団体) ○常設の居場所(いこいの家)の立ち上げや、活動の継続・定着のため運営支援を行った。
ケアプラザ	○サロンの運営支援や、団体間の情報共有の場づくりに取り組んだ。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇高齢者が気軽に集まれる地域のサロンが多くある。(24年度63ヶ所) ◇和泉中央地区の常設の居場所(いこいの家)が開所。継続的な運営支援を通じて、地域に交流の場が定着した。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○介護予防普及啓発活動事業	健康長寿についての普及を実施
	○元気づくりステーション事業	地域で介護予防のグループ活動を広める支援
ケアプラザ	○認知症予防(脳若返り隊育成講座)	認知症予防の意識向上、地域での取組を展開支援
	○熱中症予防事業	熱中症予防フェア、戸別訪問等の実施
区社協	○みんなでつくろう!福祉の泉助成金	地域福祉活動、障がい当事者活動等へ助成金を交付
ケアプラザ	○高齢者サロンの開催	65歳以上を対象としたミニサービス
	○地域で開催している高齢者サロンへの支援	サロンへの定期的な情報提供、活動支援

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆住民主体による既存の居場所(サロン)への支援に引き続き取り組む必要がある。
- ◆区内には、地区センターの将棋コーナーや駅前の広場など、自然と人が集まっている場所があるので、そのような気軽に立ち寄れる場所の情報提供を行っていく必要がある。

高齢 目標 いつまでも安心して暮らせるまち

基本目標1 いつまでも元気で、気軽に活動できる場をつくろう

取組 ○元気に生活するために、健康づくりに取り組む

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、認知症予防など介護予防事業を実施する ・介護予防を普及啓発する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動につながる講座を開催する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、認知症予防など介護予防事業を実施する ・介護予防事業参加者の活動の自主化を支援する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括支援センターの介護予防講座の修了者を自主グループ化した。 ○脳若返り隊育成事業を行い、隊員 197 人（24 年 9 月現在）を育成した。 ○介護予防や認知症の理解をテーマにしたフェアを開催した。（24 年 9 月認知症フェア） ○認知症予防、介護予防につながる講座・プログラムを実施した。
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア講座を開催し担い手育成に取り組んだ。（22～24 年 9 月受講者延べ 511 人） ○福祉の泉助成金を健康体操グループへ交付し、活動を支援した。
成果	◇各種講座や事業の実施を通して、健康づくりの意識づけが進んだ。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○介護予防普及啓発活動事業	健康長寿についてフェアや講演会等で普及啓発実施
	○元気づくりサロン事業	介護予防グループの立ち上げ支援
ケアプラザ	○認知症予防	認知症予防の意識向上、地域での取組を展開支援
	○熱中症予防事業	熱中症予防フェア、戸別訪問の実施
区社協	○ボランティア講座	ボランティア活動の心構えや体験講座を企画・実施
	○みんなでつくろう！福祉の泉助成金	地域福祉活動、障がい当事者活動等へ助成金を交付
ケアプラザ	○地域高齢者サロン支援	体操や認知症予防の取組の実施

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆サロン活動が介護予防につながっていることを再認識できるよう周知していく必要がある。
- ◆サロン活動等に取り組むための拠点となる会場の確保が必要である。

高齢 目標 いつでも安心して暮らせるまち

基本目標1 いつまでも元気で、気軽に活動できる場をつくらう

取組 ○ボランティア(担い手)も活動をとおして元気を継続する

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の予防普及活動の担い手を育成する 地域活動情報を収集・提供する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 主に団塊世代を対象とした、地域活動への参加を進める取組を行う ボランティアセンターを充実する。「人財バンク」の登録者募集、PR)
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民へ地域活動へのきっかけづくりを行う 活動参加者から担い手になってもらうための支援を行う

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○脳若返り隊育成事業を行い、隊員 197 名（24 年 9 月現在）を育成し、地域での認知症予防の取組を実践した。 ○認知症予防について地域活動時に話題にできるよう、リーフレットを配布した。
区役所 区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア講座を開催し担い手育成に取り組んだ。（22～24 年 9 月 受講者延べ 511 人） ○区社協と区地域振興課とで人財バンク（地域の活動者）情報を共有し、地域へ提供した。（登録数 239 団体、個人 68 人）
成果	◇各種事業や講座、及び人財バンクの活用を通じて、地域活動の担い手が少しずつ増えている。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所 ケアプラザ	○元気づくりステーション事業	24 年度は事業周知、25 年度は立ち上げ予定
	○脳若返り隊育成講座、交流会	隊員を対象に情報共有や学びの場として交流会を実施
	○ハマトレ研修	教室やサロンの担い手に、ハマトレの研修を開催
区役所 区社協	○人財バンク（区民活動支援センターと協働）	区内で活動する人材情報の収集と提供の仕組み
区社協	○ボランティア講座	ボランティア活動の心構えや体験の講座を企画・実施
ケアプラザ	○ボランティア養成講座の開催	地域と共に養成講座の企画・運営
	○ボランティア活動の支援	養成したボランティアの活動の支援
	○いきいきポイントボランティア養成施設内研修	ボランティア登録に必要な研修を実施

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆ボランティア活動の意義について、受け手・担い手共に確認することが必要である。
- ◆区全体で地域活動の情報収集、提供の仕組みをつくる必要がある。

高齢 目標 いつでも安心して暮らせるまち

基本目標2 助けが必要な高齢者のいる家庭を支援しよう

取組 ○自然に見守りができるようになる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な人の把握と見守りモデル事業を実施する 地域見守り活動の体制づくりと活動の支援を行う
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 地域見守り活動グループの支援を行う
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 地域見守り活動を行っているグループを支援する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症キャラバンメイト連絡会を開催した。(年5回) ○認知症について、街頭でのピラ配りや小中学校での講座などの啓発活動を行った。 ○一人暮らし高齢者地域見守りモデル事業に取り組んだ。(上飯田団地) ○声掛け～ちょっとした手伝い～サロンの活動など様々な見守り活動を行った。 ○熱中症予防の呼びかけを行なった。(イベント、広報車、チラシの各戸配布、民生委員を通じての配布、熱中症フェア237人来所・民生委員へちらし約3,500枚配布)
区社協	○サロンや地域活動の団体に対して助成金を交付し活動を支援した。
ケアプラザ	○地区での見守り活動への支援に取り組んでいる。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇高齢者への対応に困った時の相談がケアプラザに入るなど、地域差はあるものの見守りの体制が整いつつある。 ◇助成金によりサロン等見守り活動が推進された。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所 ケアプラザ	○認知症キャラバンメイト支援	連絡会年4回開催、学校など関係機関への講座開催支援
区社協	○一人暮らし高齢者地域見守りモデル事業	一人暮らし高齢者の見守り戸別訪問の実施
区社協	○みんなでつくろう！福祉の泉助成金	地域福祉活動、障がい当事者活動等へ助成金を交付
ケアプラザ	○高齢者サロン支援	民生委員等との情報交換
ケアプラザ	○ボランティア活動支援	有償ボランティア活動による見守り活動の支援

上半期の取組から見えてきた課題

<ul style="list-style-type: none"> ◆認知症について世代を超えて理解を深め、認知症になっても安心して生活できるまちづくりを目指す。 ◆見守りの定義が大きいので、誰が、誰に、何をするのかを明確にするとよい。 ◆12地区は高齢化率や担い手など地域差がある現状を把握する。 ◆ちょっとした手伝いをしてもらえる組織が地域にあるとよい。
--

高齢 目標 いつでも安心して暮らせるまち

基本目標2 助けが必要な高齢者のいる家庭を支援しよう

取組 ○介護している家族も支援する

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者と家族を支援する（認知症高齢者 SOS ネットワーク、成年後見制度など） 高齢者虐待予防、権利擁護などの啓発を行う
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者と家族を支援する（権利擁護事業など）
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 介護に関する相談を受ける 家族介護者を支援する（介護者のつどい開催など）

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 徘徊高齢者等 SOS ネットワークを区単位から相鉄沿線エリアに拡大し、福祉施設や公共交通機関等との連携により、広域的な支援を行った。登録者数35人、協力機関数33ヶ所（24年10月末現在泉区内のみ）、全体連絡会（年1回）、近隣区役所担当者連携会議（年数回） 権利擁護や高齢者虐待防止の講座を区、ケアプラザと協力して開催した。行政書士会等と協力し寸劇や相談会を開催した。 認知症状の始始めや戸惑い時期に専門医相談、介護相談を行なった。（毎月1回3人） 在宅で認知症状が急激に悪化した方へ、緊急相談、緊急一時受入を行い、円滑な入院と退院支援を図った。（23年度利用者数4人）
区社協	<ul style="list-style-type: none"> あんしんセンターの事業紹介と利用促進を行った。（事業紹介 22～24年9月15回、新規契約者 16人） 泉区老人福祉施設長研究会と共催で、求職者・家族向けに施設見学会を開催した。 送迎サービス事業を実施した。（22～23年度 2,222件、3,968回利用者延べ1,311人）
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ケアプラザが遠い地区へは出張相談会を開催し、相談しやすい工夫をした。 介護者のつどいを実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 医療や介護、権利擁護などに関して、介護が必要になったときの相談体制が整いつつある。 送迎サービスや各種事業等を通じて、介護者への支援が取り組まれた。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所 ケアプラザ	徘徊高齢者等 SOS ネットワーク	協力機関が徘徊者の発見に協力
	権利擁護事業（高齢者虐待防止、成年後見制度など）	高齢者虐待防止や権利擁護について寸劇等で啓発
	高齢者保健福祉相談（もの忘れ相談）事業	専門医によるもの忘れの相談
	認知症緊急一時入院事業	認知症状が急激に悪化した方への支援
	認知症高齢者の家族の集い	年7回実施、若年性認知症の集いも開催
区社協	あんしんセンター	高齢者・障がい者を対象とした、日常生活自立支援事業
	介護職応援フェア（泉区老人福祉施設長研究会共催）	介護職の就職希望者を対象にした各種相談、施設見学
	送迎サービス	外出が困難な方を対象とした送迎活動
ケアプラザ	出張相談	介護者のつどい
	介護者のつどい	介護者のつどいの開催、地区主催の介護者のつどい支援

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆徘徊高齢者等の発見協力機関の拡大にあたり、他区役所と区外の協力機関との連携について検討を継続する。
- ◆高齢者等の権利擁護を図る制度の存在はまだ知られておらず、広く普及啓発する必要がある。
- ◆「もの忘れ相談」は、専門医への受診を躊躇してしまう方でも気軽に受けることができ、これから介護をする家族へ大きな影響を与えるので継続する。
- ◆介護者のつどい以外の介護者支援のあり方を明確にする。

高齢 目標 いつでも安心して暮らせるまち

基本目標3 グループ間の連携を深めよう

取組 ○各種グループのネットワークをつくる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職によるグループ支援と区全体で活動するグループのネットワーク化を図る ・グループ情報を集約し提供する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアネットワークをとおした活動グループ交流会等の開催を支援する ・介護者同士の交流やグループ同士の連携が図れるよう支援する ・グループ情報を集約し提供する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ同士の情報交換と共有ができるネットワークをつくる ・グループ情報を集約し提供する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 区社協 ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○区は各課でテーマ別の連絡会を開催、区社協は泉区ボランティアネットワーク、ケアプラザは地域で活動している団体の交流に取り組んだ。 ○各種ネットワークに参画し情報収集を行い、相談時には情報提供を行った。
区社協	○区社協 HP 等を活用して、施設・団体の紹介、ボランティア募集情報を発信した。
ケアプラザ	○高齢者サロン間における情報交換を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇団体間の交流が行われるようになってきている。 ◇団体同士で課題や連携について、情報を共有する機会が増えている。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○認知症予防（連絡会）	関係機関との連絡会の実施
区社協	○泉区ボランティアネットワーク（事務局）	ボランティア団体の交流、研鑽を目的に活動する
	○人財バンク（区民活動支援センターと協働）	区内で活動する人材情報の収集と提供の仕組み
	○区社協ホームページ（泉区社協 HP ボランティアバンク 泉の協力）	区社協情報・地域の福祉保健活動情報等を掲載
ケアプラザ	○利用者懇談会	ボランティア間の交流・利用者間の交流
	○地域高齢者サロン運営者交流会	サロン間の情報交換
	○民生委員・ケアマネジャー交流	顔の見える関係づくり

上半期の取組から見えてきた課題

◆ケアプラザエリア単位ではエリアの活動内容別のグループが少数になりネットワークは難しいため、区域単位での取組が必要である。
◆各ネットワークの目的と3者の役割等を共有することが必要である。

障がい 目標 互いを尊重し、助け合うまち

基本目標 障がい児・者が暮らしやすくなる地域をつくろう

取組 ○意識のバリアフリーをすすめる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児・者やその家族、障がい者施設等からの広報啓発活動を支援する 関係機関等と協力して学習会を開催する 教育機関と協力して、児童のうちから、さまざまな年代、対象の人とふれあう場をつくる
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児・者を理解するための広報、啓発活動を実施する（作品展示等のPR事業、災害用コミュニケーションボード、出前講座など）
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 事業参加者の対象を広げ、障がい児・者との交流がしやすくなるよう工夫する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○広報よこはま泉区版に発達障がい理解のための記事の掲載を行なった。 ○自立支援協議会から区内中学校の総合学習に障がい理解のための講師を派遣した。 ○障がい児・者支援施設利用者や中学生・高校生等による軽スポーツ大会を実施した。
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○大型店舗でパネル展と即売会を開催した。 ○一般向けに発達障がい理解のためのセミナーを実施した。 ○小中学校で福祉教育を行うことで、障がい福祉への理解が進んだ。 ○小中学生が障がい施設等でボランティア体験（サマースクール事業）を行い、障がいへの理解が進んだ。 ○定期的に障がい施設の製品の販売を行った。
区社協 ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○かがやき、区社協、ケアプラザが連携してジュニアフレンド事業を開催した。
成果	◇広報、啓発活動、様々な講座や各種事業の開催を通じて、障がいの理解が進んでいる。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○自主製品販売支援事業	区庁舎や区内各地イベントで各事業所の自主製品の販売の支援
	○三障がい施設連携強化事業	区内障がい児・者支援施設間の連携を強化し、障がい者による地域支援活動の一環として行われる泉区農産物の販売についての活動支援
区役所 区社協	○ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会	軽スポーツを通じて障がい児・者の社会参加や中高生との交流を実行委員会形式で行う
区社協	○障がい施設等のパネル展、福祉の作品展	作業所等の製品の展示・販売、施設利用者等の作品展示による、啓発活動
	○サマースクール	小学4年生から高校生を対象とした、夏休みの福祉体験学習プログラム
区社協 ケアプラザ	○ジュニアフレンド（かがやき、区社協、各ケアプラザで連携企画実施）	学齢障がい児の長期休暇支援とその家族の休息、及びボランティアの育成
ケアプラザ	○福祉施設協働事業	自主製品の販売場所の提供、障がい施設・団体の参加を促し地域との交流を図る
	○中学校福祉体験事前学習支援	意識のバリアフリーについて講話
	○自立支援協議会 学齢部会協働	発達障がい周知に関する取組

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆意識のバリアフリーの進捗を把握していくことが必要である。
- ◆あらゆる各種事業に障がいのある人への参加をすすめていく。（ちらしの工夫など）
- ◆障がい児・者の理解を、知識から受け入れ・協働へと広げていく。

障がい 目標 互いを尊重し、助け合うまち

基本目標 障がい児・者が暮らしやすくなる地域をつくろう

取組 ○障がいの有無に関係なく参加・交流できる場をつくる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも参加できる居場所づくりの立ち上げと地域住民主体の運営を支援する 地域で行う取組に障がいのある人が参加できるように支援する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関が地域活動に企画から参加ができるように支援する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 事業やイベントをとおして、住民と障がい児・者をつなぐ支援を行う

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	○自立支援協議会のシンポジウムでは、障がい者の体験発表の場をもうけた。
区社協	○IH ネットを通じて区民ふれあい祭りへの参加を促進した。
区社協 ケアプラザ	○かがやき、区社協、ケアプラザが連携してジュニアフレンド事業を開催。障がい児と学生ボランティアが参加し、交流の場となった。
ケアプラザ	○地域のグループへの参加・交流づくりを図り、障がい者理解が自然と進むように配慮した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域住民主体の運営でつぼみの広場（児童デイサービス・障がい児居場所づくり事業）が1ヶ所開所した。 ◇区民ふれあい祭りへの参加やジュニアフレンド事業の実施により、障がいの有無に関係のない参加、交流の場がうまれた。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所 区社協 ケアプラザ	○泉区障害福祉自立支援協議会	区内の障がい団体や障がい福祉サービス事業所等の連携強化を目的としたネットワーク
区役所 区社協	○ふれあい“ザ” いずみ軽スポーツ大会	軽スポーツを通じて障がい児・者の社会参加や中高生との交流を実行委員会形式で行う
区社協	○IH ネット（泉区障がい福祉支援協議会） ※「Izumi Heart Net」の略語	障がい者が地域の中で安心して暮らすためのサポート体制の構築を目的とするネットワーク
区社協 ケアプラザ	○ジュニアフレンド （かがやき、区社協、各ケアプラザで連携企画実施）	学齢障がい児の長期休暇支援とその家族の休息、及びボランティアの育成
ケアプラザ	○福祉施設協働事業	自主製品の販売場所の提供、障がい施設・団体の参加を促し地域との交流を図る
	○障がい児放課後余暇支援事業	支援級・支援校に通う児童・生徒の放課後の行き場づくり
	○自立支援協議会協働 重心児余暇	健常の兄弟を含む家族と一緒に参加が出来る余暇事業

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆外出できる人の場の確保は増えているが、そうでない人への対応や参加しやすい周知の工夫が必要である。
- ◆障がいと言っても、種類や程度、対応方法は人さまざまであり、多角的な取り組みが必要である。

障がい 目標 互いを尊重し、助け合うまち

基本目標 障がい児・者が暮らしやすくなる地域をつくろう

取組 ○地域の中で助け合う仲間を増やす

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	・学生のボランティア参加のきっかけづくりと継続的な活動を支援する。(サロン参加など)
区社協	・ボランティア登録者へ障がい理解のための学習会を開催する ・関係機関と住民、活動団体が協力して開催する障がい者同士、家族同士の交流会を支援する
ケアプラザ	・住民やケアプラザ利用者に障がい児・者対象の余暇支援事業に呼びかける

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	○軽スポーツ大会を通して、障がい児・者と中高生の交流を深めることができた。 ○区庁舎区民ホール等において、施設・作業所による自主製品販売を実施し、障がい者の自立と社会参加の促進を図った。 ○三障がい施設で連携し、市営地下鉄戸塚駅構内で区内で生産された農作物の販売への支援をおこなった。
区社協	○知的障がい、発達障がいの理解を目的とした講座を開催した。(参加者 42 人) ○福祉の泉助成金を障がい当事者・家族、団体へ交付した。(22～24 年度延べ 88 団体)
ケアプラザ	○余暇支援事業へのボランティア活動参加への周知を行なった。
成果	◇軽スポーツ大会は 20 年の歴史があり、障がい者と学校の連携ができているなど、地域の中での交流が深まった。 ◇助成金により、障がい児訓練会や障がい者団体などの交流活動が促進された。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所 区社協	○ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会	軽スポーツを通じて障がい児・者の社会参加や中高生との交流を実行委員会形式で行う
区社協	○ボランティア講座	ボランティア活動の心構えや体験の講座を企画・実施
	○みんなでつくろう！福祉の泉助成金	地域福祉活動、障がい当事者活動等へ助成金を交付
ケアプラザ	○放課後余暇支援	支援級・支援校に通う児童・生徒の放課後の行き場づくり

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆障がい児・者へのボランティア活動のきっかけづくりを、更に進める必要がある。
- ◆障がい児・者支援の理解を深めていくための企画を行う。

障がい 目標 互いを尊重し、助け合うまち

基本目標 障がい児・者が暮らしやすくなる地域をつくろう

取組 ○人・情報のネットワークを強くする

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる機関や窓口の情報提供を地域でもできるように、わかりやすく情報をまとめる ・情報提供できる機関を区内に増やす ・情報の集約と発信ができる仕組みづくりを支援する ・教育機関と活動団体、区社協が連携できるよう支援する ・必要な人に必要な情報が届くようコーディネートする
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、区役所と協力して、障がい児・者や作業所、施設等関係機関との情報交換と集約、発信ができる仕組みをつくる ・教育機関が地区や区内の施設等関係機関との話し合いに参加できるよう支援する ・必要な人に必要な情報が届くようコーディネートする
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換と集約と発信ができる仕組みづくりに協力する ・教育機関が地域での話し合いに参加できるように支援する ・必要な人に必要な情報が届くよう関係機関につなげる

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○泉区障がい児・者施設マップを作成した。 ○自立支援協議会の学齢部会・重心部会に特別支援学校・養護学校からの参加を得て連携強化を図った。
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○ジュニアフレンド事業の企画を行い、ケアプラザの協力を得て実施した。 ○ジュニアフレンド事業の実行委員メンバーに、養護学校教員からの参加を得て連携強化を図った。
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○ケアプラザとして自立支援協議会参加、児童相談所と連携して障がい児・者家族の交流会に参加、情報交換や相談ができるようにした。
成果	◇関係機関の連携強化を図ったことにより、障がい児・者や家族への支援が進んだ。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所 区社協	○ふれあい“ザ”いずみ軽スポーツ大会	軽スポーツを通じて障がい児・者の社会参加や中高生との交流を 実行委員会形式で行う
区社協 ケアプラザ	○ジュニアフレンド (かがやき、区社協、各ケアプラザで連携企画実施)	学齢障がい児の長期休暇支援とその家族の休息、及びボランティアの育成
ケアプラザ	○ういずみー支援	児相主催、重心児家族の情報交換と交流の場
区役所 区社協 ケアプラザ	○泉区障害福祉自立支援協議会	区内の障害団体や障害福祉サービス事業所等の連携強化を目的としたネットワーク

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆障がい児・者本人がアクセスしやすいネットワークをつくり、そのネットワークと個別支援の連携を図る。
- ◆自立支援協議会の活動を強化し、様々な課題の整理や検討、各々の役割の明確化に取り組む。

こども・子育て 目標 こどもの明るい声が響くまち

基本目標 1 地域の中で子育てができ、こどもが育つ仕組みをつくろう

取組 ○いつでも気兼ねなく相談しあえ、支え合える関係づくりをすすめる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の家庭の相談に応じる ・地域で行うあいさつ運動を支援する ・子育て中の家庭が地域の活動に参加できる機会を増やす
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高校等でこどもとふれあう学習プログラムを提案・実施する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関わる情報提供、関係機関の紹介を行う

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○区の窓口相談、こども家庭支援相談、こんにちは赤ちゃん訪問、子育て支援者、女性相談などの相談・支援を行った。 ○地福シンボルマーク・川柳、啓発グッズ（のぼり旗、缶バッジ、反射マスコット）を作成、地域での福祉保健活動時に活用してもらうよう依頼をした。
区役所 区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○育児サークルのリーダー研修（年4回）、子育てサロン連絡会（年2回）で運営を支援した。
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○サマースクールを実施した。（22～23年度 29校、延べ 201人参加） ○学校の福祉教育への協力を行なった。（22～23年度 34件、延べ 6,643人参加）
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○窓口での相談やパンフレットの配布により子育てに関する情報提供を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇相談体制や学校を通じた福祉教育が充実した。 ◇育児サークルリーダー研修と子育てサロン連絡会をの合同開催し、地域での連携につながった。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○健やかいずみっこ子育て支援	親子サークル、子育てサロンへの支援（研修会・連絡会等の開催）
区社協	○サマースクール	小学4年生から高校生を対象とした、夏休みの福祉体験学習プログラム
	○福祉教育	福祉の理解を目的に学校や企業で行う学習実施支援
ケアプラザ	○おはなし会	親子のスキンシップ
	○広報活動	情報提供（窓口、パンフレットの配布）

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆子育ての相談があった時に、区社協・ケアプラザでも適切な相談先を案内できるよう情報の整理が必要である。
- ◆相談のレベルは、気軽な情報提供～個人的なこと～地域への支援と幅広いため、誰が何の相談を受けるのかを検討できるとよい。

こども・子育て 目標 こどもの明るい声が響くまち

基本目標2 誰でも集える世代間交流・ふるさとづくりの場をつくらう

取組 ○地域に対する愛着を深め、ふるさとづくりを促進する

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに関する自主グループを支援する 学校の余裕教室等を利用した世代間交流の場作りを支援する 世代間交流や、泉区の特徴を活かした交流事業を支援する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 地域子育て支援拠点等と協力して、ボランティア育成に取り組む
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代を対象にした交流事業を実施する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○新規立ち上げ親子サークルの助成を行った。 ○地域が行っている多世代交流サロンへの支援を行なった。
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○子育てサポートシステムを実施した。(22～23年度 活動2,974件) ○子育て支援講座を実施した。 ○福祉の泉助成金を活動団体へ交付した。(24年度 子育てサロン9団体、子育てサークル16団体)
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○親子料理教室や外遊び等の事業を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域によっては世代交流の場が創出されている。 ◇親子を対象にした講座や子育てサポートシステム等の事業の実施を通じて、地域ぐるみの子育て支援が進んでいる。 ◇親子サークルや子育てサロンへの助成金の交付を通じて、世代間交流の場がつけられている。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○保育施設による子育て支援	保育施設による地域子育て支援の推進
	○健やかいずみっこ子育て支援	親子サークル・子育てサロンへの支援(研修会・連絡会などの開催)
区社協	○子育てサポートシステム	地域の中でこどもを預け、預かりあう子育て支援の仕組みづくり
	○みんなでつくろう!福祉の泉助成金	地域福祉活動、障がい当事者活動等へ助成金を交付
ケアプラザ	○親子料理教室	親子での調理体験
	○親子野菜づくり体験塾	親子での野菜づくり体験
	○餅つき大会	餅つきや昔遊び体験

上半期の取組から見えてきた課題

◆ボランティアにサロンのOBママの協力を得られるようにしたい。(サロン連絡会で声がでている)
◆高齢者サロンに子どもが出かける世代間交流は、運営上難しい。お互いが行き来できるアイデアを出していく必要がある。
◆ボランティアの高齢化に伴う支援が必要である。
◆よい事例の発信などの情報提供が必要である。

こども・子育て 目標 こどもの明るい声が響くまち

基本目標3 子育て支援団体・協力者のネットワークをつくらう

取組 ○子育て支援団体・協力者のネットワークをつくり、協力体制を強化する

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 既存の会議を統合して、ネットワークづくりの会議を立ち上げる 住民や活動団体と協力して子育てに関するネットワークをつくる
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 既存の会議を統合して、ネットワークづくりの会議を立ち上げる 地域での子育てのネットワークができるよう支援する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークづくりの会議に参加する 地域ごとの子育てに関するネットワークに参加する 地域ごとの子育て支援マップ等を作成し、配布する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 区社協 ケアプラザ	○子育て支援ネットワーク連絡会（区域、5ケアプラザエリア別）は、3者が事務局となり取り組んでいる。
成果	◇子育て中の家族が抱える不安についての理解が深まった。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○保育施設による子育て支援	保育施設による地域子育て支援の推進
	○健やかいすみっこ子育て支援	親子サークル・子育てサロンへの支援（研修会・連絡会）等の開催
区役所 区社協 ケアプラザ	○子育て支援ネットワーク	子育て支援関係機関、地域の子育て支援の仕組みづくり

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆ネットワークがつながることで、住民にどのようなメリットがあるのか確認が必要である。
- ◆ネットワークの強化をすすめる。（区域とケアプラザエリア別の取組み内容や、参加者各々の役割）

こども・子育て 目標 こどもの明るい声が響くまち

基本目標4 こどもの人権を尊重する地域づくりをしよう

取組 ○こども虐待とドメスティックバイオレンス（DV）を防止する普及・啓発活動に取り組む

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	・こども虐待やDV等が発生したときは、関係機関や専門家と連携して、迅速に対応する
区役所・区社協 ケアプラザ	・こども虐待とDVの正しい知識と相談先の普及・啓発活動を行う ・こども虐待防止月間（11月）キャンペーン活動を行う

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	○相談事例には関係機関と協力して対応している。 ○「泉区子ども家庭支援相談事業関係機関連絡会」を定期的で開催している。（年2回）
区社協	○児童虐待防止月間にあわせて、チャリティコンサートで普及、啓発活動を行った。 ○親子コンサート（ボランティアネットワーク主催）会場で、DV防止の啓発活動を行った。
ケアプラザ	○館内に虐待防止やDVの相談先に関するパンフレットを置き、普及・啓発活動を行った。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○きめ細やかな療育サポート	発達障がいや児童虐待等特別な配慮が必要な課題について関係機関や地域と連携して取り組む
	○児童虐待防止地域啓発	児童虐待防止について地域への理解の浸透を図る
区社協	○チャリティコンサート（12地区社協と区社協による実行委員会）	地区社協のPRを目的としたコンサートを実施し、その収益は区社協善意銀行へ寄付
ケアプラザ	○虐待防止・DVに関するパンフレット設置	こども虐待防止月間（11月）に合わせ虐待防止やDVのパンフレットを置き、普及啓発活動を行う

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆関係する3者で児童虐待を再確認し、対応能力を高める必要がある。
- ◆情報の集約に向けた連絡体制や、役割分担を再確認する必要がある。

健康づくり 目標 ころ豊かで健やかなまち

基本目標 健康美を手に入れよう

取組 ○運動を生活に取り入れる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりグループの活動を支援する。(リーダー向け研修・グループ交流会の開催等) 区内のウォーキングポイントを紹介し、ウォーキングによる健康づくりを支援する 幼稚園、保育園、小学校と協働で、体を使うことの大切さをPRする
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアネットワークをとおして、健康づくりグループの活動支援や、団体同士の交流会の開催を支援する 「人財バンク」(活動者・団体情報冊子)を活用する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者サロンなどで体操指導を行う 健康づくりグループリストを作成し、誰もが自分にあった活動を探せるような情報を提供する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○保健活動推進員と協力して、各地区のイベント等での健康啓発を実施した。(24年度 21回) ○糖尿病予防教室、生活習慣病改善講座を実施した。(24年度 2回 38人) ○希望するPTAへの講座を実施した。 ○健康づくり活動フェアを開催した。(年1回 24年9月2日間 延べ600人)
区役所 区社協	○区地域振興課と区社協で人財バンク(地域の活動者)情報を共有し、地域へ提供した。(登録数 239団体、個人68人)
区社協	○福祉の泉助成金を高齢者健康体操グループへ交付した。(24年度 16団体)
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○地域サロンに地域包括支援センターが出張指導を行った。 ○5地域包括支援センターが共同でグループの一覧表を作成した。 ○介護予防などの講座修了者が継続して体操ができるようグループの立ち上げ支援を行った。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○健康づくり活動支援事業	地域での健康チェック及び啓発活動、糖尿病予防教室
	○町ぐるみ健康づくり支援事業	健康づくりグループの支援
区役所 区社協	○人財バンク(区民活動支援センターと協働)	区内で活動する人材情報の収集と提供の仕組み
区社協	○みんなでつくろう!福祉の泉助成金	地域福祉活動、障がい当事者活動等へ助成金を交付
ケアプラザ	○健康講座の開催	高齢者を対象とした体操教室、ウォーキングの開催
	○地域主催の健康講座の支援	立ち上げの支援

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆運動習慣づくりは、高齢者対象であれば高齢支援課、スポーツ・レクリエーションの観点では地域振興課など、さまざまな部署が関わるため、区役所内の関係課で情報を共有しながら取組を進める必要がある。
- ◆地域で行われている健康づくり活動の情報収集・整理が必要である。

健康づくり 目標 ころ豊かで健やかなまち

基本目標 健康美を手に入れよう

取組 ○食生活を改善する

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動団体と協力しながら食育を推進する（地域の活動団体との連携の強化、啓発） 世代や対象に合わせた食生活を支援する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者食事サービスや子育てサロン交流会等で、食育をテーマとした取り組みを支援する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 食育の普及啓発を、地域の活動団体と連携して実施する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○食生活等改善推進セミナーを実施した。（24年度 12回延べ 165人、修了者 15人） ○食生活等改善推進員（ヘルスマイト）と連携した啓発レシピ集を作成した。 ○スーパーマーケットで食育月間イベントを実施した。（23年度 6月2日間、延べ 657人） ○食育関係機関連絡会（年3回）を実施した。（年3回） ○おやつチラシを作成し関係機関に配布した。（7団体、計 2,000部） ○妊婦、親子、成人男性と各世代を対象とした調理体験を実施した。（24年度 12回 523人）
区社協	○各種媒体を使った関連情報の提供を行った。（窓口やパンフレット）
ケアプラザ	○ヘルスマイトと連携し親子向け食育講座を開催した。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○食生活等改善推進員セミナー	食生活等改善推進員を養成するセミナー（年 12回）
	○健康づくり活動支援事業	食育連絡会の開催
ケアプラザ	○親子料理教室	ヘルスマイト、子育て支援拠点すきっぷと協力して実施
	○老人クラブ活動支援	老人クラブでの栄養講座の実施
	○泉区内保育園食育研修支援	アレルギー幼児に向けたおやつの研究

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆どの世代にもあてはまる視点での取組と、こどもからの食習慣の必要性のさらなる啓発が必要である。
- ◆区役所、区社協、ケアプラザ、ヘルスマイトをつなぐネットワークが必要である。

健康づくり 目標 ころ豊かで健やかなまち

基本目標 健康美を手に入れよう

取組 ○口腔ケアの重要性とタバコの害を知る

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患予防の取り組みを行う ・歯磨き、予防、かかりつけ医に関するPR活動を行う ・保健活動推進員とともに禁煙教育を粘り強く啓発する ・保健活動推進員等とともに、禁煙を行っている店を紹介する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・区社協会員（団体・施設）向けに口腔ケアやタバコの害についてPRする活動の支援をする
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者サロンなどで歯磨きの励行や歯周病疾患の重要性の啓発を行う ・禁煙、分煙の推進に協力する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ○歯周病の教室（24年度 5回 101人）、未就学児フッ素塗布の実施（24年度 90人、相談48人）をした。 ○世界禁煙デーイベントを保健活動推進員やヘルスメイト他、関係機関の協力を得て実施した。（年1回 24年度 200人） ○健康応援団の普及啓発（ステッカーの配布など）を行った。
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ○各種媒体を使った情報提供や啓発を行なった。（窓口やパンフレット）
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内禁煙を実施した。 ○口腔ケア啓発を行った。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○世界禁煙デーイベント（5月31日）	世界禁煙デーに関係機関とともに啓発イベントを実施
	○卒煙教室	たばこをやめたいと考えている人を対象に実施
	○歯周病予防教室、歯の衛生週間	歯周病予防教室、未就学児のフッ素塗布
ケアプラザ	○口腔ケア啓発	介護予防講座で高齢者を対象に歯科衛生士による口腔ケア啓発
	○禁煙の普及啓発	施設内禁煙の実施

上半期の取組から見えてきた課題

- ◆喫煙及び受動喫煙防止のさらなる啓発が必要である。
- ◆幼児からの口腔ケアの重要性のさらなる啓発が必要である。

基本目標1 災害緊急時に地域で助け合う仕組みづくりをすすめよう

取組 ○「自分の身は自分で守る」取組をすすめる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> 消防署とともに各種イベントを活用した防災意識の向上を図るための啓発を行う（住宅の耐震化、住宅用火災警報機の設置を促すなど） 防災情報を提供する。（ホームページ、広報物の活用など）
区社協	<ul style="list-style-type: none"> 防災・火災予防週間に合わせ、各種イベントを活用し防災情報を提供する 防災・火災予防週間に合わせ、広報物を活用して、防災情報を提供する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> 防災・火災予防週間に合わせ、各種イベントや広報物を活用し、防災・火災情報を提供する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 区社協 ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○計画推進シンポジウムにおいて、泉消防署と地域住民の協働による防災活動の取組について、活動発表を行った。（23年3月泉公会堂、来場者約300人） ○地域福祉保健推進協議会において、泉消防署の議題提起により「災害時の助け合い・支え合い」をテーマに、意見交換を実施した。（23年8月、参加者51人） ○区役所・区社協のホームページ、広報紙により、防災情報を提供した（通年） ○ケアプラザでは、防災・火災予防週間に合わせて、館内で広報物を掲示し、防災・火災情報を提供した。 ○災害ボランティア連絡会の活動について、泉区民まつりや地福推進イベントにてパネル等でPRした。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○防災対策事業	災害時対策
	○地域医療救護拠点の管理運営(7拠点)	災害時の応急医療
区社協	○災害ボランティア連絡会	団体、個人で構成され、災害時に備え平常時には啓発活動や有事に備えた研鑽に努め、災害時には泉区災害ボランティアセンターの運営に携わり、被災者への支援活動を行う
ケアプラザ	○情報提供	利用者懇談会での防災研修

取組から見えてきた課題

※広域に渡り甚大な被害をもたらした23年3月の「東日本大震災」の発災により、災害の発生を完全に防ぐことは不可能であることが、あらためて明らかになった。

◆本市においては、横浜市防災計画「震災対策編」の全面的な修正を実施することとし、25年4月からの修正計画の運用開始に向けて、全市的に大幅な見直しを進めております。今後の泉区の災害時仕組みづくりは、福祉保健の関係部署、関係機関だけではなく、区全体として取り組むべき大きな対策であることから、今後は地域福祉保健計画の枠組みの中での進捗状況確認、振り返り等は実施しないこととします。（24年7月の泉区地域福祉保健推進協議会で承認済）今後は、現在地域で行なわれている災害時の見守り等の取組に限定して計画の対象としていくこととします。

防災・防犯 目標 安心・安全なまち

基本目標 1 災害緊急時に地域で助け合う仕組みづくりをすすめよう

取組 ○災害時の支え合いの仕組みをつくる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練実施の支援と協働開催を実施する（福祉施設・小中学校との連携支援、訓練内容の提案、活動費の助成など） ・区民と一緒に防災マップを作成する ・災害時要援護者支援体制づくり支援する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点と災害ボランティア連絡会が連携して防災訓練を行えるよう支援する ・防災マップ作成を支援する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練へ参加する ・特別避難場所としての体制を整備する（備蓄や訓練など） ・災害時要援護者支援体制づくりを支援する ・防災マップ作成を支援する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 区社協 ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○九都県市合同防災訓練において、医師会・歯科医師会・薬剤師会・看護師及び地域住民との協働による医療救護拠点訓練を実施した。（22年9月、いずみ野中学校、参加者約200人） ○医療救護隊を編成する区医師会、薬剤師会、看護師、保健活動推進員とともに、地域医療救護拠点訓練を毎年度実施した。（全7拠点） ○ケアプラザでは、特別避難場所としての食糧・飲料水等の備蓄品の整備、年2回の防災訓練を実施した。 ○災害ボランティア連絡会として災害時の対応等を想定した各種訓練を開催した。（23年度3回）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ◇各地区への避難場所の整備が進んだ。 ◇災害に備える意識の向上、地域での見守り活動への取組が進んだ。

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○防災対策事業	災害時対策
	○地域医療救護拠点の管理運営(7拠点)	災害時の応急医療
区社協	○災害ボランティア連絡会	団体、個人で構成され、災害時に備え平常時には啓発活動や有事に備えた研鑽に努め、災害時には泉区災害ボランティアセンターの運営に携わり、被災者への支援活動を行う
ケアプラザ	○災害時の助け合いを考える会	エリア内災害時の福祉施設間助け合いシステムの構築
	○防災訓練の実施	地域防災拠点への参加 地区社協要援護者への取組への支援

取組から見えてきた課題

※広域に渡り甚大な被害をもたらした23年3月の「東日本大震災」の発災により、災害の発生を完全に防ぐことは不可能であることが、あらためて明らかになった。

◆本市においては、横浜市防災計画「震災対策編」の全面的な修正を実施することとし、25年4月からの修正計画の運用開始に向けて、全市的に大幅な見直しを進めております。今後の泉区の災害時仕組みづくりは、福祉保健の関係部署、関係機関だけではなく、区全体として取り組むべき大きな対策であることから、今後は地域福祉保健計画の枠組みの中での進捗状況確認、振り返り等は実施しないこととします。（24年7月の泉区地域福祉保健推進協議会で承認済）今後は、現在地域で行なわれている災害時の見守り等の取組に限定して計画の対象としていくこととします。

防災・防犯 目標 安心・安全なまち

基本目標2 誰もが安心して暮らせる犯罪に強いまちづくりをすすめよう

取組 ○「自分の身は自分で守る」取組をすすめる

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	・犯罪発生情報に関する情報提供、防犯啓発活動を行う
区社協	・犯罪発生情報に関する情報を提供する ・子ども安全の日等に合わせて防犯啓発活動を行う
ケアプラザ	・犯罪発生情報に関する情報提供する ・防犯週間等に合わせて防犯啓発活動を行う

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 区社協 ケアプラザ	○区役所のホームページ、広報紙、さらに区社協、ケアプラザでは館内掲示により、泉警察署が作成した犯罪情報を提供している。(通年)

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○防犯対策事業	地域による自主的な防犯活動の支援
ケアプラザ	○振り込め詐欺防犯啓発	職員による寸劇等で啓発

上半期の取組から見えてきた課題

※「防犯」については、区役所福祉保健センター、区社協、ケアプラザのいずれもが、ホームページ、広報紙により、警察署が作成している犯罪情報の提供を行っている程度に過ぎない。

◆福祉保健の関係部署、関係機関としては、他の4分野【高齢、障がい、こども・子育て、健康づくり】に力を注ぐべきであるという意見が多く、今後は地域福祉保健計画の枠組みの中での進捗状況確認、振り返り等は実施しないこととします。(24年7月の泉区地域福祉保健推進協議会で承認済) 今後は、現在地域で行なわれている災害時の見守り等の取組に限定して計画の対象としていくこととします。

防災・防犯 目標 安心・安全なまち

基本目標2 誰もが安心して暮らせる犯罪に強いまちづくりをすすめよう

取組 ○地域による防犯活動を実施する

誰が	計画期間中に取り組むこと
区役所	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、警察、区合同で防犯パトロールや防犯講習会を開催する ・防犯物品（のぼり旗等）を提供する
区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にもできる防犯パトロールを啓発する ・防犯マップ作成を支援する
ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯マップ作成を支援する

上半期の主な取組と成果

主な取組	
区役所 区社協 ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ○地域、関係団体、事業者、泉警察署、区役所(地域振興課)の合同主催による安全・安心フェアを開催した。 ○食中毒予防キャンペーンや発達障害サポートセミナーにおいて、のぼり旗を掲げて啓発活動を行った。 ○「社会を明るくする運動」キャンペーンを行った。(23年度 街頭啓発活動4回 参加者117人、ミニ集会4回 参加者95人)

主な関連事業

誰が	事業名	事業の概要
区役所	○防犯対策事業	地域による自主的な防犯活動の支援
区社協	○社会を明るくする運動	地域住民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を築くことを目指した全国的な運動

上半期の取組から見えてきた課題

※「防犯」については、区役所福祉保健センター、区社協、ケアプラザのいずれもが、ホームページ、広報紙により、警察署が作成している犯罪情報の提供を行っている程度に過ぎない。

◆福祉保健の関係部署、関係機関としては、他の4分野【高齢、障がい、こども・子育て、健康づくり】に力を注ぐべきであるという意見が多く、今後は地域福祉保健計画の枠組みの中での進捗状況確認、振り返り等は実施しないこととします。(24年7月の泉区地域福祉保健推進協議会で承認済) 今後は、現在地域で行なわれている災害時の見守り等の取組に限定して計画の対象としていくこととします。

第2期泉区地域福祉保健計画中間振り返り

平成25年3月

発行：横浜市泉区福祉保健センター福祉保健課事業企画担当

〒245-0016 泉区和泉町4636-2

TEL800-2433 FAX800-2516

社会福祉法人横浜市泉区社会福祉協議会

〒245-0016 泉区和泉町3540

TEL802-2150 FAX804-6042